

化学災害又は生物災害時における消防機関が行う活動マニュアル（改訂版）
検討事項及び検討の方向性（案）

番号	該当箇所	検討事項	検討の方向性
① NBC 災害に関する消防活動及び安全管理のあり方			
1	全般 P3	● 対象範囲をテロ以外の原因（事故等）による BC 災害まで広げることとしたが、BC 災害を網羅的に記述しているわけではない。改めて本マニュアルで対象とする災害を明確化しておくことが必要ではないか。	● P3 第 1 節第 2 段落でより明瞭な線引きを行うことができないか。
2	全般	● 内容的には現行マニュアルからの転記が中心となり、テロ以外の原因による BC 災害に十分対応できるものとなっているか。	● テロ災害に限った内容については、その旨を明確に記述するとともに、テロ以外の原因による BC 災害については、どこまで追加記述し充実が図れるか再整理してはどうか。例えば P4 第 2 項, P19 第 2 項, P30(2), P32 第 2 項, P34 第 2 節第 1 項, P36⑤, P36⑦, P37⑤, P70(2)④, P84(2)④, P85 第 4 項(3), P108 第 7 項(3)
3	全般 P3, 29	● 火災・爆発を伴う BC 災害（爆発による危険物質の漏洩等）を対象に加えることとした場合、火災・爆発に関する既存マニュアル等との関係については、どのように整理すべきか。また、どのように記述すべきか。	● 火災・爆発を伴う BC 災害も対象とすることは適当と考えられるが、一つの災害の類型として取り扱うまでは必要がないので、火災・爆発への留意事項（防護措置等）を記述する程度が適当ではないか。

4	全般	<ul style="list-style-type: none"> ● 化学災害又は生物災害の活動では、2次災害（原因物質が見えないなどの特異性、火災・爆発危険）の可能性が高い。現行マニュアルには、消防隊員の体調管理と健康管理の記述はあるが、2次災害から身を守るための安全管理に関する記述が不足しているため、追加が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2次災害を避けるための留意点、現場での指示事項、退避に関する考え方を追加記述してはどうか。
5	全般	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内外の参考となる災害(テロ災害に限定せず)の事例や訓練などの情報をマニュアルの中に適宜反映した方がより実践的なものになるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内（テロやBC災害ではないがアクリル酸貯蔵タンクの爆発事案である日本触媒、東日本大震災時のコンビナート地区におけるタンク火災等）、海外（ベルギー・米国・韓国等）での事例として参考となるものはあるか。 ● 国民保護共同訓練（BC テロ）や各消防本部での訓練を参考にしてはどうか。
6	P. 46, 69-70, 83-84	<ul style="list-style-type: none"> ● ゾーニングは Jane' s Chem-Bio Handbook から参考例を転記するだけでなく、災害の種別・規模、周辺の状況、事態の進展等に応じてどのようなゾーニングが必要になるか、訓練事例なども参考にしつつ、その基となる考え方など記述した方が良いのではないか。 ● また、検知の結果、どのようなレベルになればゾーニングを変更するのかについて判断基準等が必要ではないか。 ● 化学災害時と生物災害時のゾーニングが同様の内容となっているが、微妙な相違点があるので、その説明があった方が良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 参考文献としている Jane' s Chem-Bio Handbook からより具体的な情報が得られない場合は、2012 Emergency Response Guidebook の Initial Isolation and Protective Action Distancesなどを参考として示すこととしてはどうか。 ● ゾーニングの変更は、(抽象的にはなるが) 手順を示すこととしてはどうか。 ● 生物災害時のゾーニングを実態に即した内容に精査し、相違点を明示化してはどうか。
② 新しいNBC 災害対応資機材の効果的な活用方法			
7	P. 125-130	<ul style="list-style-type: none"> ● 特殊な資機材・車両については、一般的な機能等の記述に留めず、実際の災害や訓練での活用事例などを踏まえて、どのように運用すべきかについて記述した方がよいの 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上記5と同様に、国内外の事例や訓練での資機材(検知器、大型除染システム等)・車両(特殊災害対応自動車等)の活用事例を踏まえた運用方法を記述してはどうか。

		ではないか。	● 検知器については、複数の検知器を所有している場合の効果的な活用方法を記述してはどうか。
③ NBC 災害の態様別の部隊、車両及び資機材の運用方法			
8	P. 32-33	● 「部隊編成の考え方」は、一例を提示するだけでは不十分であり、その基となる考え方を充実し記述することが必要ではないか。また、第2章以降の活動と関連させて、事態の進展に応じてどのように変更していくのかも記述した方が良いのではないか。	● 複数のケースを想定した応用方法、例えば、地元レベルA活動隊が存在しない場合の地元部隊の編成、不足している消防力の応援要請などについて、より具体的・実践的に記述することが可能か。
9	P. 29, 56, 59, 67, 81	● 個々のフローチャートではなく全体を俯瞰できる活動のフローチャートがあると解りやすいのではないか。 ● また、個々のフローチャート間で微妙な相違点がある場合は、その説明があった方が良いのではないか。Cf. p67, p81	● 全体を俯瞰できるフローチャートを作成してはどうか。 ● 再度、個々のフローチャートを精査し、より解りやすいものにしていく。類似のフローチャート間での微妙な相違点については明示化してはどうか。
10	P. 30-32	● 「化学テロ災害又は生物テロ災害の疑いと推定」、「化学災害と推定」、「生物災害と推定」では微妙な相違点があるが、その説明があった方が良いのではないか。	● 3つに区分した内容はほぼ同一の内容となっているが、仮に相違点があるのであればそれを明示化し、相違点がなければ再整理してはどうか。
11	PP. 54-57, 65-68	● 初動活動と消防活動で「レベル別活動隊の活動範囲」では微妙な相違点があるが、事態の推移により異なる場合は、時点間の変更について記述する方が良いのではないか。また、「レベル別活動隊のフローチャート」が変化していることも明示化すべきではないか。	● 「レベル別活動隊の活動範囲」及び「レベル別活動隊のフローチャート」の事態の推移による相違点（化学剤の種類が推定できた場合にレベルC活動隊がウォームゾーンで、また、レベルB活動隊がホットゾーンで活動が可能となる。）をより明確に説明してはどうか。
12	PP. 66-67, 80-81	● 化学災害時と生物災害時の活動内容を比較しつつ、その相違を明示化し、記述内容、フローチャートを再整理すべきではないか。	● 生物剤の種類が推定できた場合に、レベルC活動隊が活動の主体となり、化学災害時におけるレベルA、B活動隊の活動内容を含め行うことなど、相違点を明確にフローチャート等に明示化すべきではないか。

13	PP. 60-61	<ul style="list-style-type: none"> ● 「第1項 出動から現場到着の活動」は、レベルD隊以外の記述も入り込んでいるため、「第2項 レベルA・B・C隊の到着後からの活動」との関係も踏まえつつ再整理が必要ではないか。なお、第2項は位置づけを再考すべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● レベルD隊に加えて、レベルC隊が最先着する場合も想定することとし、それに特異な内容と一般的な内容について峻別しつつより明確に記述してはどうか。
④ NBC 災害時の県内応援隊・緊急消防援助隊、及び、警察、自衛隊等の関係機関との連携活動			
14	P. 35	<ul style="list-style-type: none"> ● 「応援の要請」は、関係機関等を記述するだけでなく、どのような場合にどこに対して何の応援を要請するか、その基となる考え方、基準等を充実させ記述させることが必要ではないか。また、第2章以降の活動と関連させて記述した方がよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 応援要請は、部隊編成の不足を補う手段となるため、事態の進展、時系列に沿って、上記8と整合を図りつつ記述してはどうか。
⑤ その他			
15	P. 18	<ul style="list-style-type: none"> ● 「サリン事件等を契機とするこれまでの対応」は参考になるものの、この場所が適切か。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たに予定している国内外の事例等と併せて整理し、適当な場所に記述してはどうか。